

◆目指す姿

- 我が国の基盤である「**強い**」経済と、「**豊かな**」生活環境をさらに発展させ、それらの基盤により支えられる地域や人々の多様性が、国民の多様な幸せ、「**新しい日本・楽しい日本**」を創り出していく。
- 人材希少社会においては、国民一人一人を大事にする社会、すなわち、人中心の国づくりを進め、すべての人を尊重する「**人財尊重社会**」を築いていく必要がある。多様な価値観を持つ一人一人が互いに尊重し合い、日本中のあらゆる地域が自己実現を図っていくことのできる魅力溢れる場となることを目指す。
- 地域の未来を担う若い世代一人一人が、地域に愛着を持ち、主体的に考え、選択・行動できる力、そして、自らの人生を切り開きつつ、社会の当事者として活躍する力が育まれるような人づくりが行われる社会を目指す。

○ 10年後に目指す社会像

- 地方創生2.0は、国とともに、地域の住民や産官学金労言士が一体となって実現を目指すものであり、「みんなで取り組むもの」「みんなで実現を目指す社会像」である。
- このため、「新しい日本・楽しい日本」の実現に向け、10年後に目指す姿（社会像）として定量的なものを示す。

◆政策の5本柱

① 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

③ 人や企業の地方分散

～産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生～

② 付加価値創出型の新しい地方経済の創生 ～地方イノベーション創生構想～

④ 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用

⑤ 広域リージョン連携

○ 異なる要素の連携と「新結合」

- 「新結合」とは、異なる分野や領域に属する要素同士を、従来にはなかった形で組み合わせることにより、画期的な商品やサービスを生み出すプロセスである。
- これを推進するため、「地方イノベーション創生構想」として、各省庁が連携した地域の主体的な取組へのアイデア段階から具体化までの支援、多様な人材・主体の連携促進など、これまでにない相乗効果を生み出す視点から推進する。